

幸せへの貯蓄

新潟県立長岡工業高等学校

三年 毛利 友也

消費税十パーセントへの増税が再度延期され、二年半の先送りとなった。私が産まれたときは五パーセントだった消費税。延期のニュースを知ったとき、私は単純に良かったという気持ちが強かった。なぜなら高校入学時に八パーセントへ上がったわずか三年での増税は、とても早すぎると感じたからだ。しかし税金について調べていくうちに、老後のことを考えると、早めに消費税が上がっても良いのではないかと思うようになっていった。

世界ではほとんどの国が日本より先に消費税を導入している。その中でも税金が高いことで知られているデンマークの消費税は、日本の三倍以上も高い二五パーセントである。

給与の三分の一を税金で納めているため、暮らしが大変で、人々も辛い生活を送っているのではないかと思っていたが、世界幸福度ランキングでは堂々の第一位となっている。

おそらく教育費や医療費が無料であること、そして何より国民と国がお互い「信頼」で成り立っているからだと思う。

日本はどうだろうか。政治ニュースを聞いてみると、国民のために力を合わせてよりよい社会を築いていくというよりは、自分のために公的資金を悪用したり、議員同士が足の引つ張り合いをしたり、良い印象はあまり感じられない。国民は誰が議員になっても変わらないと思っているからか、選挙ではいつも投票率が低く、政治家の考えに反対意見が多いように思う。それらが日本の世界幸福度ランキング五十三位の一因のような気がしてならない。

他国と比べると、日本の消費税はまだ少ない方だ。年金保障や少子化問題、国の借金等将来のことを考えると、消費税は上げざるを得ないのが現状ではないか。

消費税は幸せへの貯蓄だと思う。そのために内閣は、税の使い道をしっかりと国民に伝え、使途不明金や偽りのないようにしてほしい。

私たち国民も税に関心を持ち、議員の言葉に耳を傾け、選挙にも足を運んでほしい。税金があるから今の日本があり、日本で生活していけるのだと私は思う。

そのためにもデンマークのように、国民と国がお互い「信頼」の関係を持つことが大切だ。私も暮らしやすいこれからの日本を考え、選挙に出かけ、消費税を払っていききたい。